



ある程度形が残っていれば、丸木舟の認定は容易い ことです。

私は、これまでに縄文時代遺跡で発見された一辺50~100cmほどの木材片を見て、②木取り、⑥加工痕、⑥形態(厚みや湾曲度合い)、②焦痕、⑥表面観察、⑥素材(用材種・年輪変形・年輪密度)、などをもとに20艘ほどの丸木舟片を認定してきました。

なぜ、そうしたことができるのでしょうか?その根拠お話しすると、遺跡に残っている丸木舟の数々の 謎に、近づくことができます。

- ①丸木舟の基本形は、②縄文時代の時期差や使用目的(内水域使用か海洋使用か)、⑥運びやすさを追求して薄くする際の強度確保のため(薄く仕上げた場合に多様な荷重に対する応力確保のための畦状削り残しを作る)、⑥乗員数、で決まります。
- ②素材木の樹種(材質)や規模(太さ長さ)などの条件によって、②木取り、⑤製作法、⑥完成形、が変化します。
- ③丸木舟は、埋没後に含水率があがるので、土圧によって変形しています。
- ★丸木舟の形を決める因子は、一つではないのです。

舟底に切削時に削り残した高まりがある丸木舟



●舟底部を横断するよう 畦のような高まりを削 り残して作り、薄くし て扱いやすくした舟体 や浅い舟形にした舟体 強度を高めた舟有り。



縄文時代丸木舟の用材 赤字は千葉県に出土例あり

北海道……トネリコ属・ミズナラ

東 北……ハリギリ・マッ(二葉松類)

関 東……カヤ*・スギ*・モミ・ケヤキ・ムクノギ・クリ・ハル ニレ・コナラ節・ケヤキ・クスノキ・トネリコ属

北 陸……スギ・トチノキ・トネリコ属

東 海……クスノキ

近 畿……ヒノギ・スギ・モミ・サクラ属・クスノキ

山 陰……スギ・ハリギリ・クスノキ

九州沖縄……ハリギリ・シイ属

★芯部使用可能な樹種⇒舷側高を高くでき太さ条件を緩和

縄文時代の丸木舟事例① 千葉県発見の丸木舟⇒カヤ材が多い。

北海道 紅葉山49号遺跡(中末)

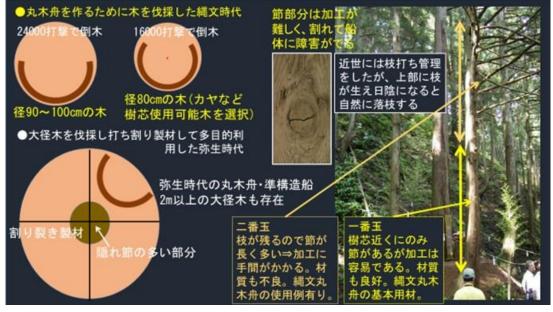
東 北 向田18遺跡(前末) 萪内遺跡(後) 双子遺跡2(後)

関東狸渕(?) 西山田(後) 寿能遺跡(晩) 膝子10(後) 大道遺跡(中) 南鴻沼遺跡(中) 四本竹遺跡(前初) 平方(?) 赤山陣屋遺跡(後) 中老袋(前?)高尾河岸2(後?) 伊奈氏屋敷跡遺跡2(後-晩) 畑町遺跡4(後) 万力一番割(?) 沖田(?) 岡発戸沖(?) 子ノ神(?) 岩井(?) 鷺ノ谷(?) 寺崎(?) 宮田下遺跡2(後) 矢摺遺跡(後) 七間掘5(?) 多古田遺跡(後~晩)下沼(?) 米倉長割9(?) 残し沼2(?) 亀田(?) 家徳(?) 横須賀(?)矢切(?) 保品(?) 南借当遺跡(?) 島ノ間遺跡(中)島(?) 丸山埋地遺跡2(?) 中城下遺跡(後?) 南玉造(?) ゴープケ沼(?) 大台地先(?) 雷下遺跡(早) 高谷川B・C(?) 加茂遺跡2(前) 古川(?) 川田(?)中里遺跡(中) 袋低地遺跡(?) 伝福寺裏(前)

縄文時代の丸木舟事例② 北陸・近畿・山陰発見の丸木舟⇒スギ材が多い。

- 北 陸 青田遺跡(晩) 小竹貝塚(前) 上久津呂中屋遺跡2(中) 畝田・寺中遺跡 (弥生?) 三室トクサ遺跡(前~中) 鳥浜貝塚4(前~後) ユリ遺跡9(後~ 晩)
- 東 海 神明原·元宮川遺跡(晩) 諸桑満成寺(?) 諸桑鈴木家(?) 末福遺跡2 (後)
- 近 畿 長命寺湖底遺跡4(晩) 元水茎8(後) 尾上浜遺跡(後) 松原内湖遺跡15 (晩) 入江内湖遺跡5(前~後) 浦入遺跡(前) 東土川遺跡(後) 東土川遺跡(後) 和東川底(?) 佃遺跡(後)
- 山 陰 島遺跡(後?) 東桂見遺跡(?) 桂見遺跡2(後) 井手胯遺跡(晩) 塞ノ谷 遺跡(後) 佐太講武貝塚(?) 島根大学構内遺跡(前初) 三田谷 I 遺跡 (後~晩) 沖手遺跡2(後~晩)

九州沖縄 伊木力遺跡(前?) 前原遺跡(貝)



写真は芯の部分も使用できる材なので、やや細い木を使用したために、船首部が丸くなった丸木舟。

……一部の研究者から外洋航行用とされた、東京都 北区の中里貝塚出土例や、千葉県館山市博物館



で保管されている木 更津出土例など。

※左端の舳先部が樹 芯を取り込んで丸頭 になる。最大径部を 越えて舷側高が確保 されている。

丸木舟の発見状況は多様です

かつては河川改修などの際に発見されることが多かったので、 明らかに丸木舟と認識できるものが取り上げられました。その場 合は所属時期の判断は難しいです。

埋蔵文化財の開発前調査体制が整った1970年代からは、発掘調査によって検出される事例が増加しました。

- ●係留地やその付近で発見される場合は、土器型式や層位などから時期を推定することになりました。現在では直接年代測定をする必要が高まっています。
- ●単独で発見される場合は<mark>移動埋積の可能性</mark>もあります。所属時期の認定は難しいです。
- ●再利用された形·再加工された形で発見されることもあります。 器種認定や使用時期認定は、これまた難しいです。

紅葉山49号遺跡での丸木舟・舟形容器・櫂・タモ網・鮭叩き棒の認定



丸木舟の型式分類と特徴

- ●かつての分類=鰹節型・割り竹型……縄文時代の舟は鰹節型とされていた
- ●弥生時代以降=組合わせ式の舟(準)構造船 各部材が発見されている⇒ 舷側板・波除板・仕切板
- ①久宝寺南遺跡・埼玉県小敷田遺跡などの波除板
- ②ホゾに樹皮や繊維を詰め水漏れを防ぐ工夫⇒大阪府久宝寺南遺跡・三重 県六大A遺跡など
- ●縄文時代丸木舟の特徴
- ①未完製品の出土=栃木県下山田遺跡など
- ②単純な刳抜き製作の舟と舟底内部に横走する削り残し隆帯をもつ舟
- ③ 舟底に炭化面が認められる = 加工補助? 木質部の管理?
- ④尖底下面を削り底部を平坦にする技術(縄文時代晩期)ローリング対策
- ⑤舟体の厚さを薄くする技術⇒特に後晩期の舟に多い薄手仕上げ





丸木舟伐採実験

直径97cmのスギの周囲に足場を作って伐採



石斧は大木にも負けない

しかし人は疲れる



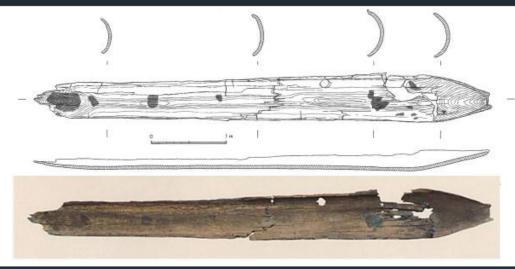
3日間かけ24000打撃で倒木(実動は記録作業を含み16時間)



丸木舟を作る 丸木舟製作時に縦刃石斧に追加した横刃石斧



丸木舟を作る 復元する丸木舟は鳥浜貝塚出土1号丸木舟



丸木舟を作る 製作工程の計画案を作成する 1.樹皮・白太を取り去る 樹皮 白太 (シロコッ赤身 (アコエミ) 4.内面のくりぬき 2.上半部分を取り去る 5. 内外面の調整 3.外形の荒削り 6.仕上げ

丸木舟製作 1-1樹皮はぎ 使用器具=一端を削った棒



丸木舟製作 1-2白太剝ぎ 使用器具=縦刃石斧・横刃石斧



九木舟製作 2上半部分除去 使用器具=縱刃石斧・横刃石斧



丸木舟製作 2上半部分除去 なぜ楔を使用して割らないのか



旋回木理

- ●木は本来、多かれ少なかれ 捻じれて成長する
- ●鋸で挽き切るとその捻じれ の制約を受けずに分割できる
- ●縦挽き鋸は中世後期から
- ●木を割って製材する技術は 縄文時代晩期?
- ●弥生時代になると、楔や掛 合が標準装備化する

丸木舟製作 3舳先・艫の形を粗削りする 使用器具=横刃石斧



丸木舟製作 4舟内側の粗削り 使用器具=横刃石斧



丸木舟製作 5ガイドラインを設定し舟体内外面の成形加工



丸木舟製作 5 内外面の成形加工 使用器具=短柄横刃石斧追加



丸木舟製作 5内外面の成形加工 追加した短柄横刃石斧



丸木舟製作 5内外面の成形加工 手間のかかる節部加工



丸木舟製作 5内外面の成形加工 節部加工で破損した石斧



丸木舟製作 5内外面の成形加工 節部加工で破損した石斧



丸木舟製作 5内外面の成形加工 石斧刃先の付け替え



丸木舟製作 5内外面の成形加工 舟体を回して外面加工



丸木舟製作 5内外面の成形加工 実測図との照合作業





丸木舟製作 6仮進水させ航行しバランス確認中



丸木舟製作 6並行して製作している晩期の浅い丸木舟も仮進水



丸木舟製作 7仕上げの再調整加工



丸木舟製作 7様々な炭化実験(加工補助?・舟体管理?)



丸木舟製作 7様々な炭化実験(加工補助?・舟体管理?)



丸木舟製作 7様々な炭化実験(加工補助?・舟体管理?)



丸木舟製作 7様々な炭化実験(加工補助?・舟体管理?)

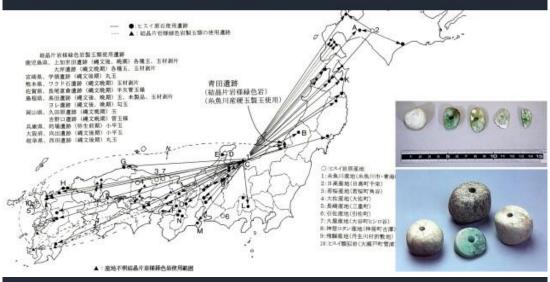


丸木舟製作 7様々な炭化実験(加工補助?・舟体管理?)



丸木舟航行 岩手県宮古湾 舵櫂操作

縄文時代の丸木舟航行新潟県のヒスイが北海道・鹿児島へ



縄文時代の丸木舟航行 イノシシ・クリが伊豆諸島・北海道へ

